
GPDAクイズ研究会、発足！

鎌田悪石

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

G P D A クイズ研究会、発足！

【Nコード】

N 7 5 8 0 H

【作者名】

鎌田悪石

【あらすじ】

ひよんなことからクイズ大会に参加することになったドライバー達。そこで急遽、会長ピロニーがクイズの授業をする事に・・・少しためになるF1小説」、誕生！

GPDAクイズ研究会、発足！

gpda会員のドライバーの方々は、1月7日午後6時に「寝台特急レズモ22号」のスーパースイートルームに参られたし。gpda会長、
デイディエ・ピローニより

こんな手紙が渡されたのは、gpdaの忘年会の後であった。

「やれやれ、年明け早々「緊急会議」ってやつですかい？」

「新ルールの対策についてはもう話し終わったはずだし」

「そもそも、緊急会議やるような大事件なんてあったっけ？」

各ドライバー達は、首をひねって帰っていった。

そして年も明け、1月7日がやってきた・・・

午後6時、ドライバー達は集合場所であるレズモ22号に乗り込んだ。
だ。

ドライバー達が中に入ると、ピローニが真剣な顔でドライバー達を待っていた。

「おつす、会長。なんかあったか？」

「ああ、少し深刻な事態だ・・・」

ドライバー達がざわつく中、ピローニが切り出した。

「みなさん、我々は、クイズをすることになりました！」

.....

「はっ？」

「クイズ？」

「クイズって、問題に答えるやつ？」

「ああ、そのクイズだ。」

「ええーっ！よしてくれよ！俺そついうの弱いんだよー！」

「俺もだよー！」

「一体全体、何でクイズなんかやる羽目になったんだ？」

「スポンサーのテレビ会社の番組で、出ないとマズイんだよ・・・」

「じゃあ、一人で行きやいいだろー!」

「それが・・・必ず四人一組でないとダメだよ。」

「つつたく、面倒くせえなあ。仕方ねえ、会長を助けると思っ出てやるか。」

「よせやい!んなのに出たって、赤っパジさらすだけだろー!」

「静かに!そのために、今から勉強会を始める。」

「勉強会っすか?」

「そうだ。えーまず、授業の態勢に入る。クイズのポピュラーな形は、早押しクイズだ。」

「早押しクイズって、ボタンを押して答えるやつ?」

「そうだ。しかし、この早押しというのはなかなか難しい。世の中にはとんでもないスピードでボタンを押してくるやつがいる。だが、相手は各バラエティ番組のチームだ。そこで、まずは簡単な問題から。」

「はい、質問です。」

「何だ、セナ?」

「会長はなんでそんなにクイズのことを知ってるの?」

「昔、ウルトラクイズを見て、自分も少し勉強しようかな、と・・・なるほど。では会長、授業の続きをどうぞ。」

「ちやかすなよ！で、何の話だったっけ？」

「問題を出すんだろ？用意はできてるぜ。」

「それでは、問題です。あそこの席に座ってください。」

「おい、なんだよこの真ん中にあるの！」

「それが早押しボタンなんだよ！それを一番早く押した人が、解答権を得られる仕組みだ。じゃ、問題いくぞ！」

「うおーっす！」

Q1、今年のF1カレンダーから消えた2つのレースとは、フランスと

ピンポン！

「アルボレート！」

「カナダGP」

「正解！今年カレンダーから消えたのは、フランスとカナダGPです。」

「でー！早すぎるだろ！」

「アルボレート、まさかお前カンニングしてないよなア？」

「してないに決まってるだろ！」

「そう。これが「早押し」というものだ。誰よりも速く押すためには、こういうことも必要なのだ。分かり易く言うと、こういうことだ。」

問題：世界三大珍味といえば、トリュフ、フォアグラとなに？

「これは分かったぞ。キャビアだ！」

「正解！でも、もう少し早く押すための工夫を、記号で表すと・・・」

問題：世界三大珍味といえば、トリュフ、フォアグラとなに？

「何だ、この記号？」「ここで押せ」「ってことかな？」

「リントさん、正解！」

「やったー！会長、これはポイントになりますか？」

「ならねえよ！つまり、三大珍味の場合、トリュフ、フォアグラ、キャビアだから、1つ目が消え、2つ目の言葉の頭が分かれば押せ

るわけだ。ではもう一つ、「マイナーな選択肢」というものがある。では例題。」

問題：「ベネルクス三国」と言えば、ベルギー、オランダとどこ？
ピンポン！

「ハイ、ヴィルヌーヴ！」

「えーっと・・・ルクセンブルク！」

「お見事！ちなみにこの問題の早押しポイントは・・・」

問題：「ベネルクス三国」と言えば、ノベルギー、オランダとどこ？

「ここで押せるの？」

「そうだ。ベルギー、オランダは割合有名な国だ。ルクセンブルクはあまり有名ではない。なのでこの場合、「ルクセンブルク」と答える方がいいのだ。」

「なるほど。」

「では、12日の本番まで、各自勉強に励むように。あ、言い忘れた。10日に、メンバー3人を決める「選抜戦」を行う。」

「会長！3人って言ったな？あと一人は誰だ？」

「それはこの私、ディディエ・ピローニです。」

「まあ会長はクイズに詳しいみたいだし、いいんじゃないかな。」

「よし、じゃあ10日だな？会長、期待して待ってるよ！」

「それではみなさん、頑張ってください。また後日。」

かくして、ドライバー達の挑戦が始まった・・・

G P D A クイズ研究会、発足！（後書き）

勢いで書いてしまった小説です。まだ「1982年」とか

「ヘブンズF1」も終わってないのに・・・

正直、僕の趣味も入った小説です。

読んでくださった方、ありがとうございます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7580h/>

G PDAクイズ研究会、発足！

2010年10月8日13時35分発行